

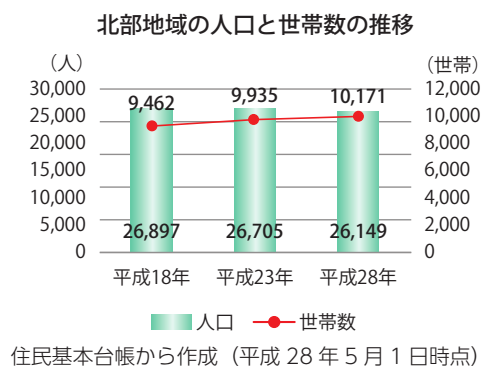
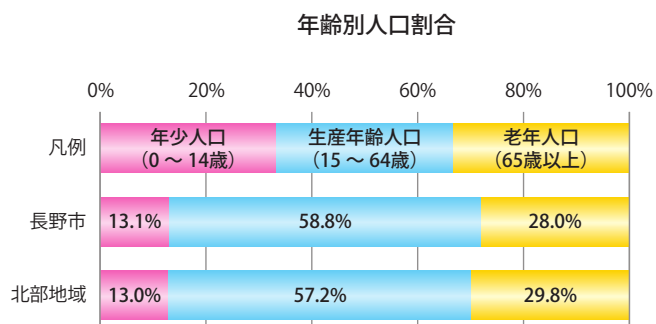
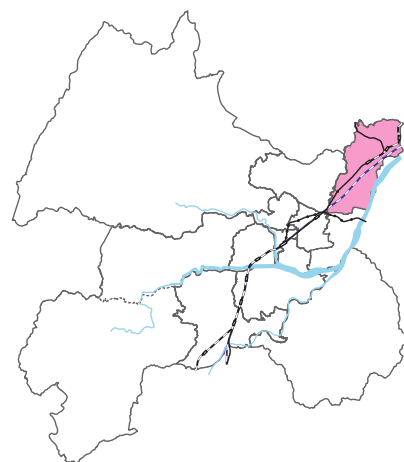
5 北部地域（豊野地区・長沼地区・古里地区）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

北西の山裾と南西の千曲川に挟まれた地域で、北しなの線や国道 18 号が地区の中央部を南北に通っている。豊野駅や三才駅を中心として、北しなの線沿いに市街地が連担し、北国街道沿いに田園集落が形成されている。その他はまとまった農地が広がっている。

居住人口は、緩やかな減少傾向にあり、生産年齢人口の割合は比較的低く、老年人口の割合は比較的高い。世帯数は、増加傾向にある。



現況と課題

拠点の形成・都市機能

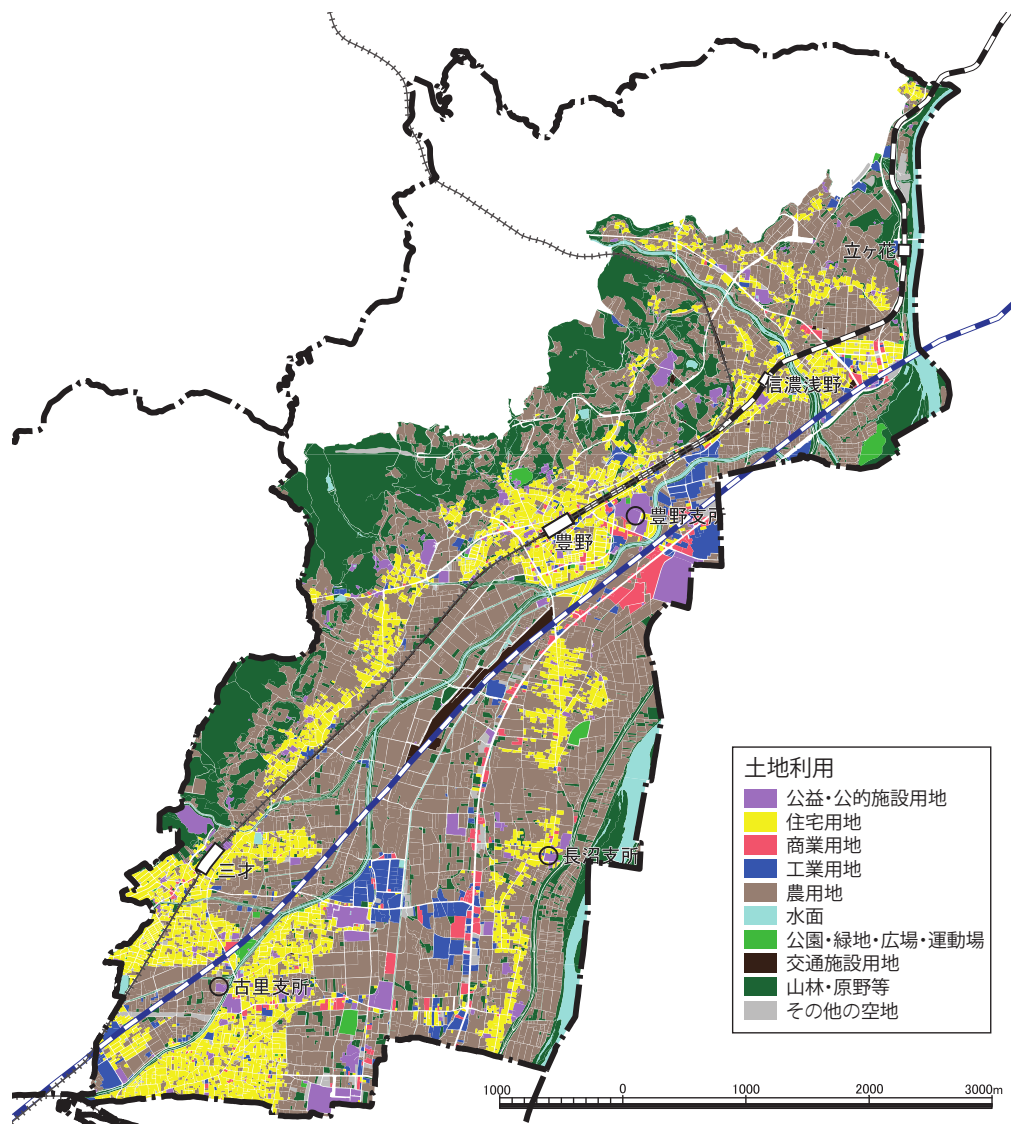
- ・豊野駅周辺では、市の支所や病院、日用品や食料品を販売する店舗などの集積が見られる。
- ・三才駅には駅前広場等の都市基盤が未整備で、目立った商業の集積は見られない。

課題

- ▶ 商圈の広域化により、豊野駅周辺の商業の集積は低下傾向にあるが、鉄道駅周辺は特に地域住民の生活を支える重要な拠点として維持していく必要がある。
- ▶ 豊野駅や三才駅の周辺では、交通の利便性を向上させるため、都市基盤の整備が求められる。
- ▶ 農業的な土地利用が主なエリアでは、集落維持の取組みが求められる。

土地利用

- ・豊野地区の西部を南北に縦断する北国街道沿いには、古くから発達した集落が広がっている。
- ・山裾から平坦地にかけて果樹園等の農地が広がり、集落が点在している。
- ・豊野駅北東部には工場等が集積している地区がある。
- ・国道 18 号沿いには、スーパー、ホームセンターなどの生活利便施設の立地が見られる。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成（都市計画区域外はデータがないため非表示）

課題

- ▶ 良好な農業基盤の保全と、集落の環境改善による良好な住環境の創出を図る必要がある。
- ▶ 農業と共存した緑豊かな環境の保全や秩序ある土地利用を進める必要がある。
- ▶ 既存市街地の縁辺部は、農業的土地利用と都市的土地利用の調整を図る必要がある。
- ▶ 幹線道路沿線の無秩序な開発により、交通機能が阻害されないような配慮が必要である。
- ▶ 生活拠点や生活中心地を強化するため、駅周辺や集落内に生活に必要な施設の立地等を図る必要がある。
- ▶ 農業的土地利用が主の地区では、農地の保全を図るとともに、体験型農業や 6 次産業化*など農業の振興に必要な施設の立地が可能な土地利用を検討する。

道路・交通

- ・国道 18 号をはじめ、県道等が市街地に並行している。また、地域の北部には広域農道も整備されている。
- ・豊野駅を取り囲み、鉄道で分断される南北の市街地を一体化する環状道路を都市計画道路として位置づけている。
- ・三才駅の駅前広場や駅に接続する幹線道路等が未整備である。
- ・丘陵部の病院や大学等へつながる道路の整備が不十分である。

課題

- ▶市街地と集落を結ぶ幹線道路や生活道路の整備による地域の利便性の向上を図る必要がある。
- ▶豊野駅・三才駅の交通施設のバリアフリー化や、駅前広場や駐車場などの整備が必要である。
- ▶北部幹線等の広域的な交通網の一部を担う幹線道路の整備や、生活道路の整備が求められる。

自然環境・都市環境・景観

- ・豊野地区の北西部は、標高 500m 台の緩やかな丘陵地帯が南東に広がっている。
- ・集落を挟む平坦地と山裾には、果樹園等による良好な景観が広がっている。
- ・長沼地区には、りんごを中心とした多様な農産物を生産する農地が広がっている。
- ・農業的土地利用のエリアにおいて、沿道型商業店舗の立地や無秩序な市街地の拡大により、街並みや自然景観への影響が見られる。

課題

- ▶優良農地の維持・保全を進めるとともに、美しい農村景観の維持が重要である。
- ▶自然の保全や森林環境を活用した散策・スポーツ・レクリエーションなどの利用により、健全な森林環境の維持が必要である。
- ▶山、川、緑などの自然や、まとまった優良農地が残されており、これらの保全と活用が求められる。
- ▶幹線道路沿いの環境保全や良好な景観形成を誘導する必要がある。

防災・安全

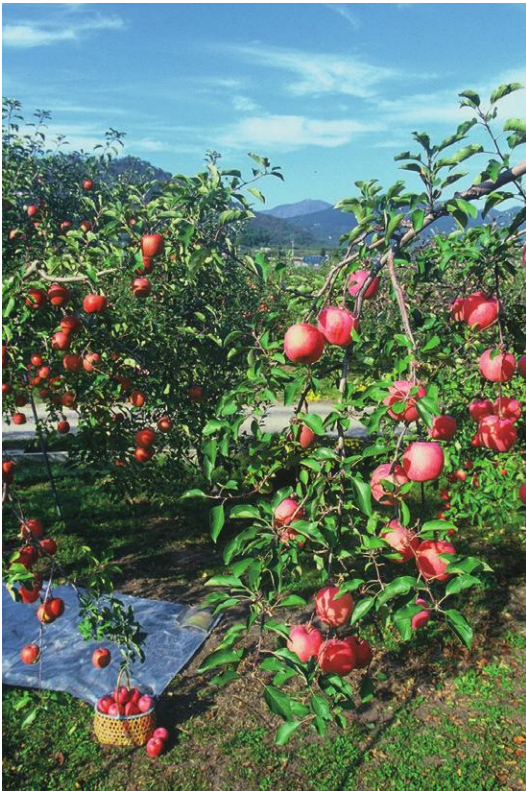
- ・標高の低い地域であり、地域内の市街地内に鳥居川や浅川等が流下している。
- ・大雨時には、内水排除に苦慮している。
- ・千曲川沿いの長沼地区では、過去に浸水被害を広範囲に受けている。

課題

- ▶鳥居川・浅川等では、水害に対応する防災・治水・排水対策が重要である。
- ▶浸水対策の強化が必要である。



豊野地区周辺の街並み



りんご狩り



豊野つつじ山まつり

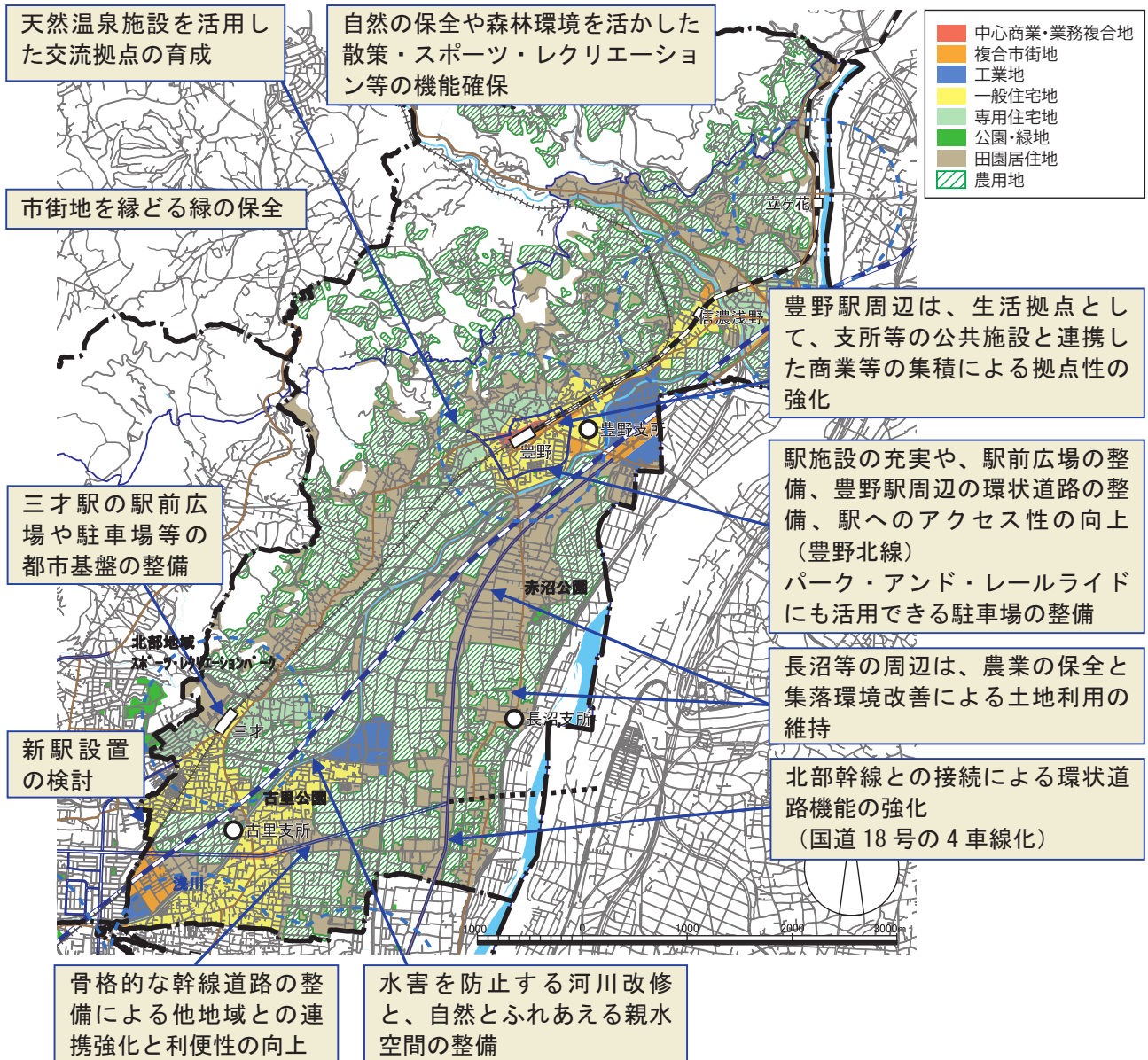
(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

<p>地域の街づくりの目標</p>	<p>長野市の北の玄関口として、千曲川沿岸の水辺と緑を活かした潤いのある環境と利便性を兼ね備えた居住環境の形成、多様な農産物を生産する地域として農業振興や交流が活性化される街づくりを目指す。</p> <p>緑豊かな良好な住宅地と農業が調和し、便利で安全な地域の形成を図るとともに、日常生活支援機能を維持し集落の保全を図る。</p>
<p>整備の方針</p>	
<p>拠点の形成・都市機能形成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊野駅周辺は、地域生活を支えていく生活拠点として、駅周辺の公共施設と連携した、商業・サービス機能の集積を促進し、拠点性の強化を図る。 ・北しなの線や国道 18 号沿いに位置する交通上の利点を活かし、体験型農業や 6 次産業化など農業の振興を目的とした他産業との連携を図る。 ・天然温泉施設「りんごの湯」を活用した観光・交流の拠点の形成を図る。 ・自然に恵まれた環境の中で、農業等と生活が一体化した地域づくりを進めるとともに、市街地の無秩序な拡大を防ぐ。 ・生活利便施設の立地が集積している、北部幹線、高田若槻線、国道 18 号等の広域幹線道路沿いのエリアと既存集落などの居住地とを交通ネットワークにより結び、生活利便性の向上を図る。
<p>土地利用方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊野駅南側の準工業地域は、駅前の立地を活かし、駅北側や豊野支所をはじめとする駅周辺の公共施設と連携した商業等の集積を促進する。 ・豊野地区全体では、農業等と都市的な土地利用が共存した緑豊かな環境の確保や秩序ある土地利用を進める。 ・特に市街化調整区域では、農業的土地利用や自然環境に配慮した土地利用を維持する。 ・既存の住宅地では、良好な住環境を活かしたゆとりある戸建て住宅を中心とした緑豊かな住宅地の形成を図る。 ・長沼地区は、良好な農業基盤の保全と集落環境の改善による、田園的土地利用を維持する。
<p>道路・交通整備方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市軸を形成する幹線道路の整備・維持を図るとともに、市街地と集落を結ぶ道路や、住宅地内の生活道路の充実により、地域の交通利便性と居住環境・安全性の確保を図る。(北部幹線、東豊線) ・豊野駅周辺の鉄道で分断される南北の市街地を結ぶ道路の整備を図る。 ・豊野駅・三才駅周辺では、駅前広場・駅施設の充実や、駅周辺の街路の整備、パーク・アンド・レールライド*にも活用できる駐車場の整備を図る。 ・広域的な交通処理を担う外環状道路網の一部として、北部幹線の整備を推進する。 ・三才駅と豊野地区との連携を強化するような道路の整備を図る。 ・丘陵地に形成される住宅地や公園と幹線道路との連絡性を強化するための新たな補助幹線道路の整備を推進する。 ・須坂市との連携を強化する方策の検討を行う。 ・北長野駅～三才駅の区間において、公共交通の利便性向上と、路線利用者の拡大による活性化を目的とした新駅設置の可能性を検討する。
<p>自然環境・都市環境・景観形成方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優良農地の維持・保全を進め、美しい農村や水辺の景観の形成を図る。 ・北西部の丘陵地や山間部は、市街地を縁どる豊かな自然や景観として、農地や森林の保全を図る。 ・昭和の森公園や北部スポーツレクリエーションパーク等の連携を強化し、スポーツ・レクリエーションの交流の拠点として一体的な活用を図るとともに、地域住民の憩の場となる公園等のオープンスペースの整備を推進する。 ・浅川・駒沢川等では、自然の保全と自然とふれあう親水空間の整備を推進する。

防災都市づくり方針

- ・ 水害等の災害を防ぐため、治水・排水施設の整備など、総合的な取組みにより、安全な街づくりを推進する。
- ・ 千曲川・浅川・駒沢川等では、水害を防ぐ河川改修を行う。

【北部地域 整備方針図】



○ 鉄道駅徒歩圏(半径800m)

地域共通の事項

- ・ 交通上の利点を活かし、体験型農業や6次産業化などの拠点の形成
- ・ 農業等と都市的な土地利用が共存した緑豊かな環境の確保や秩序ある土地利用の促進
- ・ 優良農地の維持・保全を進め、美しい農村や水辺の景観の形成
- ・ 農地の保全と農業振興を目的とした他産業との連携
- ・ 市街地と集落を結ぶ道路や住宅地等の生活道路の充実
- ・ 水害等の災害を防ぐ治水・排水施設の整備など、総合的な取組みによる安全な街づくりの推進
- ・ 公園等のオープンスペース整備を進め、緑豊かな良好な住宅地の形成と自然環境の保全

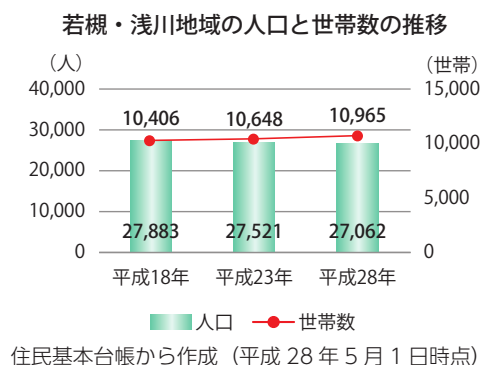
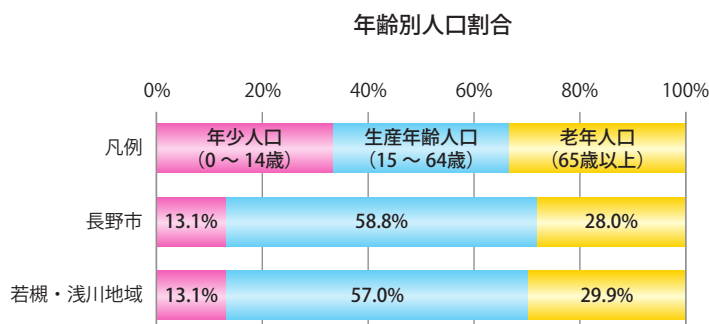
6 若槻・浅川地域（若槻地区・浅川地区の一部）

(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

市域の北端から、浅川までのエリアで、中山間地域と平坦地域の双方を併せ持つ。平坦部では、経済成長期からの継続的な宅地開発により、良好な戸建て住宅地が整備されている。また、まとまった農地が広がるエリアや中山間地域の集落も包括する多様性に富んだエリアである。

居住人口は、緩やかな減少傾向にあり、生産年齢人口の割合は比較的低く、老年人口の割合は比較的高い。世帯数は、緩やかな増加傾向にある。



現況と課題

拠点の形成・都市機能

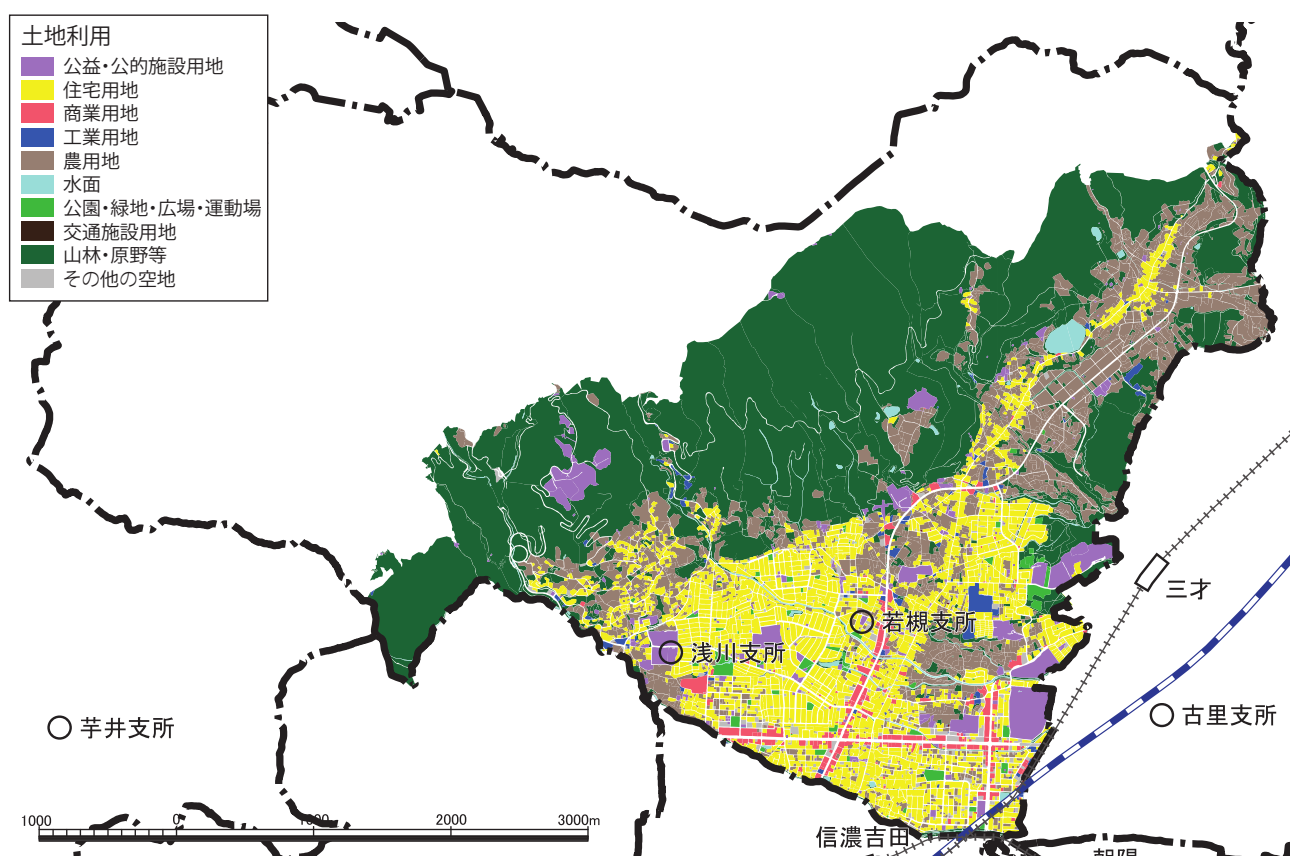
- ・ 幹線道路（北部幹線、高田若槻線など）沿いでは、商業施設や生活利便施設の立地が集積しており、拠点性が高まっている。
- ・ 浅川団地・若槻団地などの高度経済成長期に造成した住宅地や、北部幹線沿いの近年造成された住宅地など、比較的大規模な住宅団地が多い地域である。
- ・ 高田若槻線のSBC通りから北長野通りまでの区間が開通することで、東部地域との連携の強化が見込まれる。

課題

- ▶ 商業施設や生活利便施設の集積により、拠点性が増した幹線道路沿いでは、公共交通によるアクセスを向上させ、近隣の住宅地とのネットワークの形成が求められる。
- ▶ 北部の中山間地域から、生活利便施設が立地する地域へのネットワークが必要である。

土地利用

- ・土地区画整理事業等で整備された高田若槻線や北部幹線等の幹線道路沿いには、郊外の沿道型商業店舗やサービス業等の進出が顕著である。
- ・大規模な一団の戸建て住宅地などは、用途地域による建築制限により日用品販売店が徒歩圏内に立地できない地区がある。
- ・浅川地区では、築30～40年の建築物の割合が非常に高く、今後一斉に土地利用更新の時期を迎えることが予想される。
- ・北部の丘陵地には山林や果樹園などに集落が点在している。



平成25年度都市計画基礎調査より作成（都市計画区域外はデータがないため非表示）

課題

- ▶ 幹線道路沿線の無秩序な開発により、交通機能が阻害されないような配慮が必要である。
- ▶ 生活の利便性や生活拠点を強化するため、幹線道路沿いの計画的な市街地の形成が必要である。
- ▶ 大規模住宅地では、良好で静かな住環境との調和を図りつつ、高齢化による生活スタイルの変化に対応するため、コンビニエンスストアなど日用品の販売店の立地を可能とする用途規制の見直しが必要である。
- ▶ 農業的な土地利用が主の地区では、農地の保全を図るとともに、体験型農業や6次産業化など農業の振興に必要な施設の立地が可能な土地利用を検討する。

道路・交通

- ・大学・短大等の教育施設や公共施設へつながる道路の整備が不十分である。

課題

- ▶北部幹線等の広域的な交通網の一部も担う幹線道路の整備や、拠点間を結ぶ道路や生活道路等の整備が求められる。
- ▶中山間地域の集落での生活を維持するため、生活拠点への乗合タクシーなどの効率的な移動手段の確保が必要である。
- ▶生活拠点と都市拠点である都市中心部への公共交通ネットワークの維持が必要である。

自然環境・都市環境・景観

- ・近年の市街化の中には、小規模な開発地も多く、公園等の整備が不十分な場所も見られる。
- ・昭和の森公園等が立地しているが、周辺の道路の整備が不十分である。
- ・郊外の沿道型商業店舗の立地の集積や無秩序な市街地の拡大により、街並みや自然景観への影響が見られる。

課題

- ▶地域内には、山、川、緑などの自然環境や、まとまった農地が残されており、これらの保全と活用が求められる。
- ▶幹線道路沿いは、良好な景観形成が必要である。

防災・安全

- ・山裾に住宅地が迫っており、土砂災害の発生の恐れもある。

課題

- ▶浸水対策の強化が必要である。
- ▶周辺の丘陵地や山間部では、自然の保全と防災性を強化する必要がある。



ブランド薬師と境内からの眺め（浅川ループ橋を望む）



昭和の森公園



若槻地区の街並み

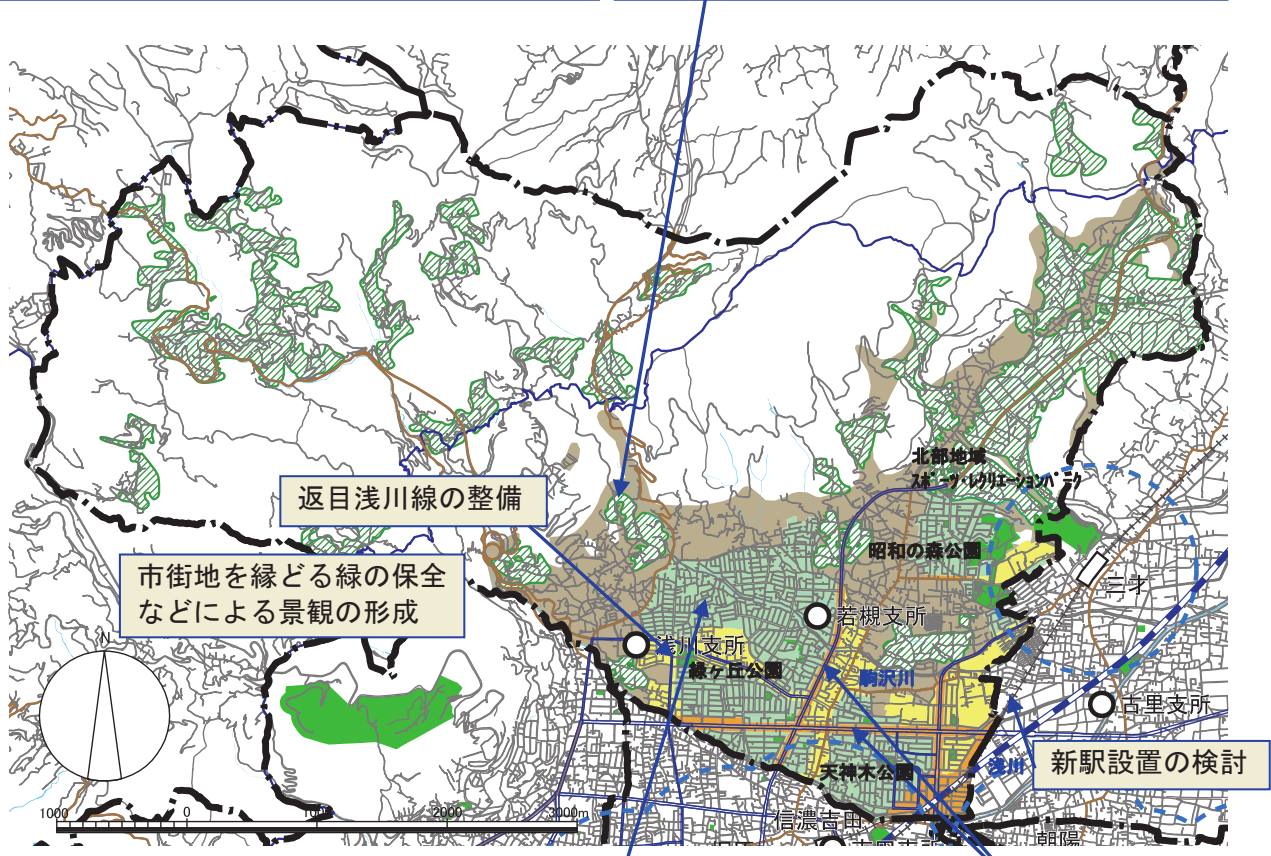
(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	緑豊かな良好な住宅地と農業が調和し、日常生活支援機能が集積する生活拠点の形成により、便利で安全な地域の形成を図る。
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に恵まれた環境の中で、農業等と生活が一体化した地域づくりを進めるとともに、市街地の無秩序な拡大を防ぐ。 ・北部幹線や高田若槻線等の広域幹線道路沿いでは、良好な景観を備えた建物を誘導し、周辺的生活利便性を強化する機能の集積を誘導するとともに、公共交通の充実による利便性の高い市街地の形成を図る。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の住宅地では、良好な住環境を活かした緑が豊かでゆとりある戸建て住宅を中心とした住宅地の維持とともに、小規模な店舗（コンビニエンスストア等）の立地を可能とする土地利用の見直しを図る。（既存住宅地の保全・育成を図る） ・市街地周辺に広がる良好な農地の保全を図るとともに、体験型農業や6次産業化など農業の振興を目的とした他産業との連携を図る。 ・丘陵地帯では、農業や自然が生活と融合し、災害に強く安心して暮らせる里山居住地の形成を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・広域的な交通処理を担う外環状道路網の一部として、北部幹線の整備を推進する。 ・住宅地と幹線道路とのアクセスを強化するための新たな補助幹線道路（返目浅川線等）の整備を推進する。 ・丘陵地や山間部では、市街地との連携を強化する道路の整備を推進する。 ・北長野駅～三才駅の区間において、公共交通の利便性向上と、路線利用者の拡大による活性化を目的とした新駅設置の可能性を検討する。 ・中山間地域の集落と生活利便施設が立地する生活拠点とを結び、バス交通やデマンドタクシー*等の公共的な移動手段の確保を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の憩い・潤いやスポーツの拠点となる公園等の緑とオープンスペースの整備を推進し、良好な住環境の形成と自然環境の保全を図る。 ・丘陵地や山間部は、市街地縁辺部の豊かな自然や景観の保全のため、無秩序な市街化を防止し、自然環境の保全を図る。 ・浅川・駒沢川等では、自然の保全と自然とふれあう親水空間の整備を行う。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・丘陵地や山間部では、地すべりやがけ崩れ等の災害に強い地域づくりを進める。 ・浅川・駒沢川等では、水害を防ぐ河川改修を行う。

【若槻・浅川地域 整備方針図】

中山間地域の集落と生活利便施設の立地するエリアを結ぶ公共的な移動手段の確保

里山居住地の防災性の強化と、隣接市街地と連携を強化する道路などの整備



- 中心商業・業務複合地
- 複合市街地
- 工業地
- 一般住宅地
- 専用住宅地
- 公園・緑地
- 田園居住地
- 農用地

生活利便性の向上を目的とする用途規制の見直し

広域幹線道路沿道の秩序ある商業施設の立地の誘導

○ 鉄道駅徒歩圏(半径800m)

地域共通の事項

- ・ 良好な住環境を活かした戸建て住宅を主体とした住宅地の保全
- ・ 公園等のオープンスペースの整備、緑豊かな良好な住宅地の形成と自然環境の保全
- ・ 丘陵地や山間部では、地域の防災性の強化
- ・ 浅川・駒沢川等では、水害を防ぐ河川の改修
- ・ 農地の保全と農業振興を目的とした他産業との連携

7 千曲川沿川地域（柳原地区・大豆島地区・朝陽地区）

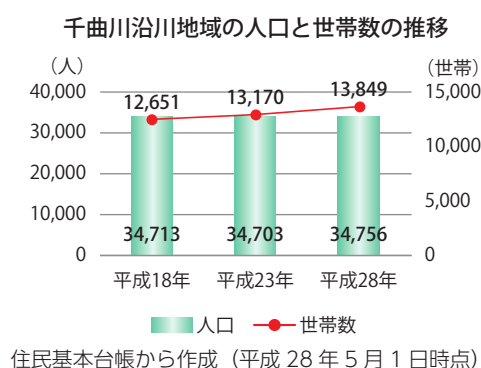
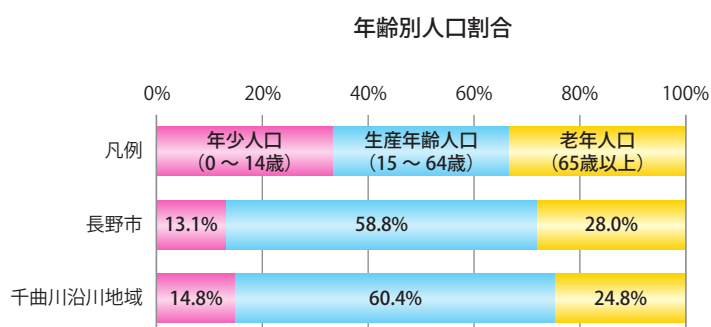
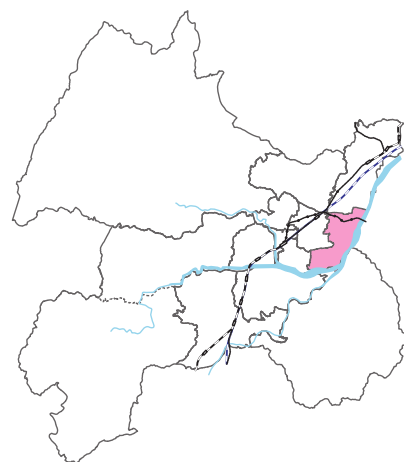
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

市東部の千曲川沿いに広がる地域である。

柳原・朝陽地区では、長野電鉄線沿いや主要幹線道路沿いには市街地が広がり、千曲川沿いには田園集落が広がる。大豆島地区では、市街地の拡大が先行し、幹線道路などの都市基盤の整備が遅れている。

居住人口は、ほぼ横ばいであり、年少人口との割合は比較的高く、老年人口の割合は比較的低い。世帯数は、増加傾向にある。



現況と課題

拠点の形成・都市機能

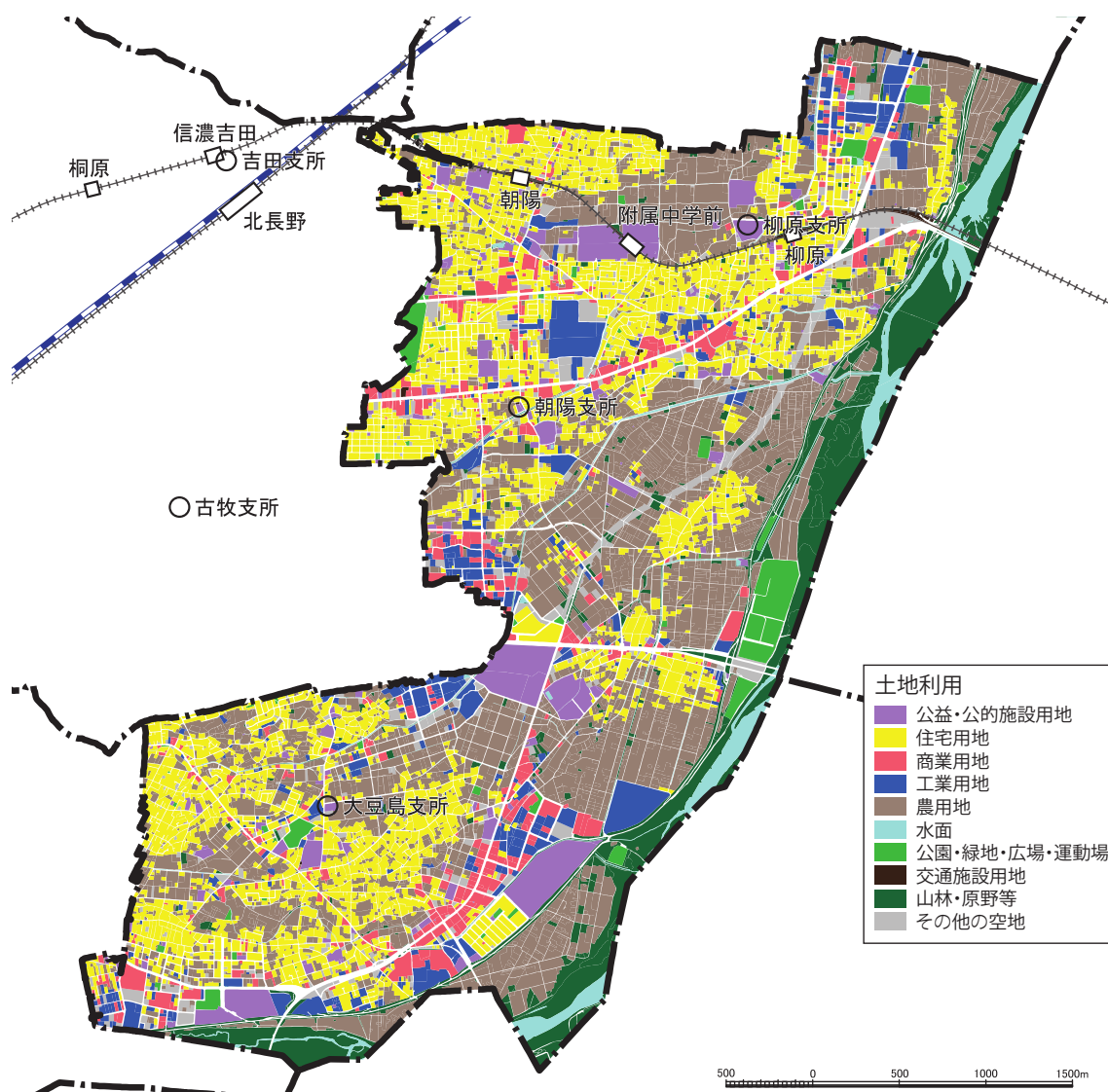
- ・スポーツ・レクリエーションの拠点としての千曲川河川敷の千曲川リバーフロントスポーツガーデン、北長池のエムウェーブが整備されており、加えて大豆島地区では、健康・レジャー施設の整備が進められている。
- ・大豆島地区には、清掃センター・東部浄化センター等の市民生活を支える都市施設が整備されている。
- ・柳原地区には、文化芸術・交流の拠点として東部文化ホールが整備された。また地区の北側に隣接するエリアには、長野市民病院が立地するなど健康・福祉関連施設が集積した地域となっている。

課題

- ▶生活利便性の向上とともに地域内の施設を活用した交流の活性化や、産業の振興など地域の特色を高めていくことが必要である。

土地利用

- ・ 地域北部の長野電鉄線沿いや幹線道路沿いは、市街地の拡大が進み、住宅地等が連担している。
- ・ 千曲川沿いには、農地が広がり、集落が点在している。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成

課題

- ▶ 幹線道路沿いでは、店舗等の無秩序な立地による環境悪化を防止するため、計画的な立地の誘導の必要がある。
- ▶ 千曲川沿いや信州大学附属小学校・中学校の北側では、まとまった優良農地の保全を図り、農業と調和した土地利用が必要である。

道路・交通

- ・急速に発展した市街地では、幹線道路が未整備で生活道路も狭あいである。

課題

- ▶住宅地における幹線道路の整備や、生活道路の改良が求められる。
- ▶地域の南部では、人口の集積に対して路線バスなどの公共交通サービス水準が低い。

自然環境・都市環境・景観

- ・千曲川沿いでは、水田や果樹園等のまとまった農地が広がり、河川敷内にも農地が見られる。
- ・幹線道路の整備により、沿道地域での環境の変化が懸念される。

課題

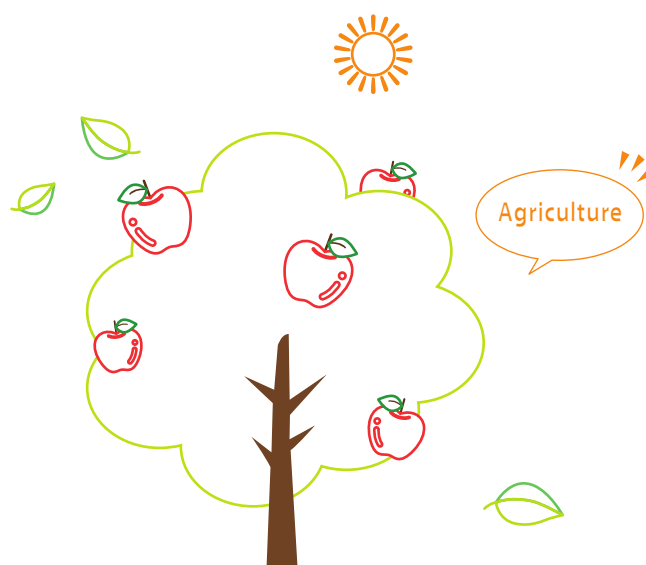
- ▶まとまった農地は、多様な農産物の生産空間や市街地周辺の自然空間として重要であり、これらの保全を図る必要がある。
- ▶幹線道路沿いの環境保全や良好な景観形成への誘導が必要である。

防災・安全

- ・千曲川沿いには低地が広がり、浸水の被害が懸念される中、柳原・朝陽地区では過去に浸水被害が起きている。

課題

- ▶千曲川沿いでの浸水被害の軽減のため、防災性の向上を図る必要がある。
- ▶集落では、狭あいな道路の改良などにより、防災性の向上を図る必要がある。





大豆島地区 落合橋周辺の街並み



長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブ

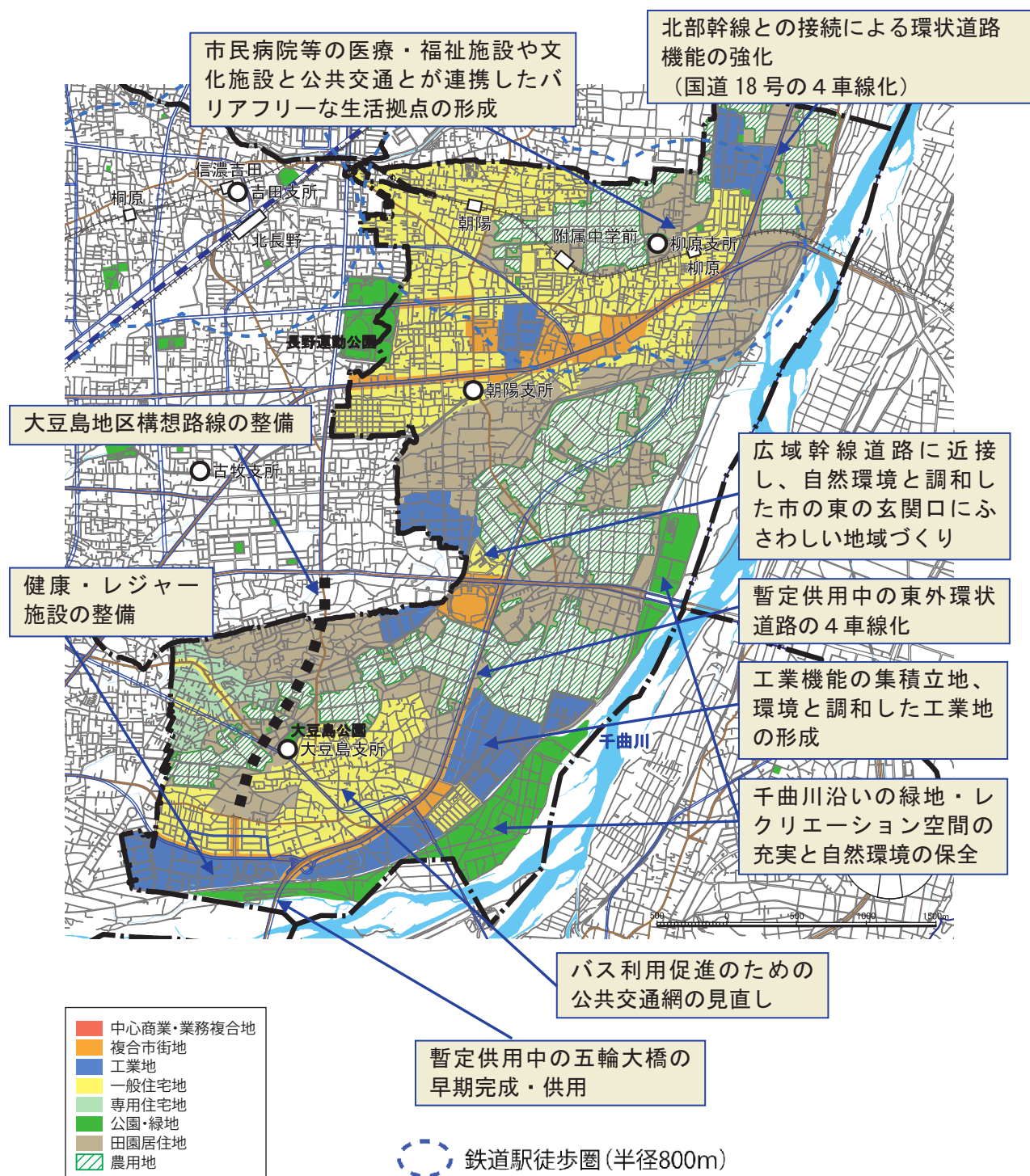


朝陽・柳原地区の街並み

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	市街地の無秩序な拡大を抑制し、計画的な市街地の形成を図るとともに、地域の生活利便性を高める拠点の形成と、自然と都市的機能が調和した安全で安心な地域づくりを目指す。
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高速道路インターチェンジへのアクセスが容易であるという立地特性を活かし、自然環境と調和した良好な景観の整備を進め、長野市の東の玄関口にふさわしい地域づくりを進める。 ・ 長野電鉄線の各駅周辺は、公共交通による北長野地域拠点や中心市街地へのアクセスが容易であることから、周辺住民の生活の中心となる生活利便施設等の集積や、交通と生活の拠点性を高める。 ・ 柳原駅周辺は、東部文化ホールや長野市民病院、保健センター等が近接して立地しており、文化・医療・保健・福祉施設と公共交通機関が連携した生活拠点の形成を目指す。 ・ 清掃センター・東部浄化センターの周辺では、良好な居住環境の保全に配慮した街づくりを進める。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存住宅地では、戸建て住宅を中心とした緑豊かでゆとりある良好な住環境を備えた住宅地の形成を進める。 ・ 国道 18 号、長野須坂インター線、東外環状線沿いの工業地では、周辺の住環境と調和した、交通利便性を活かした土地利用を進める。 ・ 千曲川沿いの農業的土地利用のエリアでは、農地の保全を図り、農業と居住機能が調和した土地利用を維持し、集落の環境整備を進めるとともに、市街地の無秩序な拡大を抑制する。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東外環状線の整備を進めるとともに、周辺の環境と調和した沿道景観を誘導する。 ・ 東外環状線の暫定供用区間では、4 車線化を促進する。 ・ バス交通との連携を図り、長野電鉄線の各駅へのアクセス性を高める。 ・ 大豆島地区構想路線など地域内の幹線道路のネットワーク化により、地域の交通利便性の向上を図るとともに、住宅地内の狭い道路の改良を推進する。 ・ 長野市民病院や朝陽駅・柳原駅周辺は、歩行者空間等のバリアフリー化を推進し、住環境の向上や防災能力の強化のために生活道路の充実を図る。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千曲川沿いの農地の保全や、幹線道路沿道の景観誘導を図るとともに、周辺の住宅地の住環境の維持・保全を図る。 ・ 地域南部の千曲川沿いの工業地では、敷地内の緑化やオープンスペースの確保を促進し、犀川・千曲川など周辺の自然環境との調和を図るとともに、健康・レジャー施設を中心に広く人々が集う都市環境の形成を図る。 ・ 千曲川沿いの緑地やレクリエーション空間の充実を図り、水と緑のネットワーク化を推進する。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存住宅地の生活道路の改良等により地域全体の防災能力の強化を図る。 ・ 水害等災害に強い街づくりや体制づくりを進める。

【千曲川沿川地域 整備方針図】



地域共通の事項

- ・千曲川沿いの地域での水害等に強い街づくり
- ・幹線道路沿いの景観誘導と農業と宅地が調和した住環境の整備
- ・生活道路の改良と緑やオープンスペースの整備による既存住宅地の住環境の向上
- ・千曲川沿いなどの農地の保全と市街地の無秩序な拡大の抑制
- ・農地の保全と農業振興を目的とした他産業との連携

8 川中島・更北地域（川中島地区・更北地区）

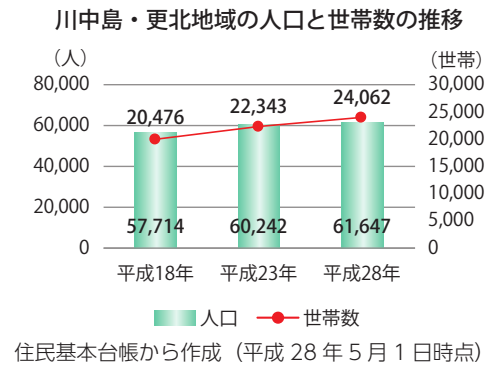
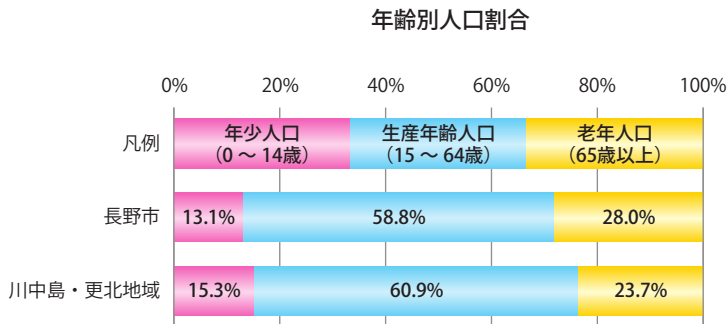
(1) 地域特性と現況・課題の整理

地域特性

犀川を挟んで中心市街地に近接していることから、近年市街地が拡大してきた地域である。市街地周辺には、農地が広がっているが、市街地のスプロール*化が進み、工場の立地なども見られる。

冬季オリンピック・パラリンピックに合わせ、幹線道路などの都市基盤整備が進み、川中島地区では、駅やニュータウンが、更北地区では国道19号（長野南バイパス）の開通により、沿道の一部で商業等の集積が進んだ。

居住人口は緩やかな増加傾向にあり、年少人口と生産年齢人口の割合は比較的高く、老年人口の割合は比較的低い。世帯数は増加傾向にある。



現況と課題

拠点の形成・都市機能

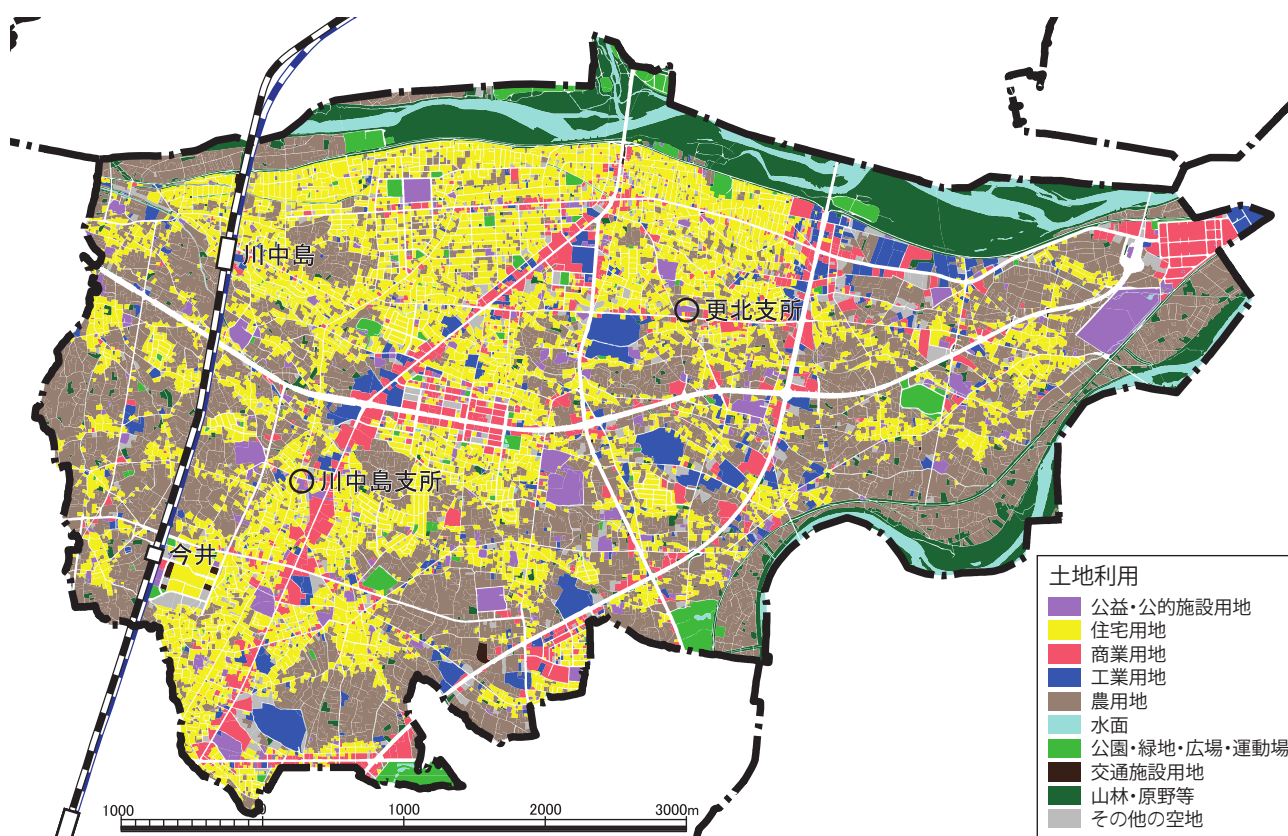
- ・今井駅の東側では、冬季オリンピック・パラリンピック選手村（今井ニュータウン）の建設とあわせ、駅前広場や道路などの都市基盤の整備が行われ、人口の集積が高いエリアが形成されている。
- ・国道19号（長野南バイパス）や国道18号、県道長野上田線沿いでは、大型店、専門店、飲食店などの商業施設が集積している。
- ・八幡原史跡公園には、市立博物館などが立地しているが、連携した活用は十分ではない。
- ・更北地区には、ホワイトリングが整備され、スポーツ・レクリエーションの拠点となっている。

課題

- ▶ 川中島駅周辺では、生活拠点として、商業施設など都市機能の集積と併せて、都市基盤の整備等による、拠点性の向上が求められる。
- ▶ 八幡原史跡公園は、川中島古戦場跡地としての知名度を活かした観光の拠点としての機能の向上が求められる。

土地利用

- ・市街地のスプロール化が見られる。地域の外周部には、農地が多く存在する。
- ・住宅地の供給を目的とした土地区画整理事業が多く施行されたことにより、都市基盤の整備が進められ、良好な住宅地が形成されている。
- ・県道長野上田線や国道 18 号、国道 19 号（長野南バイパス）沿いには、沿道型商業店舗、事業所、工場等が多数立地している。



平成 25 年度都市計画基礎調査より作成

課題

- ▶ 中心市街地に近いという地域特性を活かした利便性の高い住宅地の形成とともに、環境や高齢化に配慮した公共交通が利用しやすい市街地の形成が求められる。
- ▶ 国道 19 号（長野南バイパス）等の広域的な幹線道路沿いは、店舗等の無秩序な立地による環境の悪化を防止するため、計画的な立地を誘導する必要がある。
- ▶ 農地や自然環境と住宅地が調和した土地利用を進める必要がある。
- ▶ 農業的な土地利用が主の地区では、農地の保全を図るとともに、体験型農業や 6 次産業化など農業の振興に必要な施設の立地が可能な土地利用を検討する。

道路・交通

- ・ 中心市街地へのアクセスは、犀川を渡る橋がボトルネックとなっており、通勤時間帯などに渋滞を発生させている。
- ・ 市街地が東西に細く形成されており、駅が地域の西端にあるため、鉄道を利用するには利便性が低い地区がある。
- ・ 川中島駅は、駅前広場の整備は完了しているが、構内のバリアフリー化や、アクセス道路の整備・改良は進んでいない。

課題

- ▶ 犀川橋梁部の渋滞解消のため、総合的な交通施策が必要である。
- ▶ 地域内の移動を容易にするため、川中島駅へのアクセスの強化や、バス等の公共交通の確保に加え公共交通が利用しやすい交通環境の整備が必要である。
- ▶ 歩道の設置等により、道路のバリアフリー化を進めるとともに、未整備区間での幹線道路の整備が必要である。

自然環境・都市環境・景観

- ・ 水田や果樹園などの農業的土地利用が多く行われており、集落や宅地開発による住宅地が点在している。
- ・ 犀川・千曲川などの自然河川や、犀川から取水される農業用水路が多く流れている。

課題

- ▶ 犀川・千曲川等の自然環境を保全するとともに、これらを活かした空間整備が必要である。
- ▶ 良好な農地を保全し、都市内の緑と共存した良好な住宅地の形成が必要である。
- ▶ 幹線道路沿いでは、良好な景観形成への誘導が必要である。

防災・安全

- ・ 地域の東側は、犀川・千曲川の合流地点であり、水害の恐れがある。

課題

- ▶ 水害等の災害に強い街づくりや体制づくりが必要である。



信玄・謙信 一騎討ち像



川中島古戦場



川中島平の桃

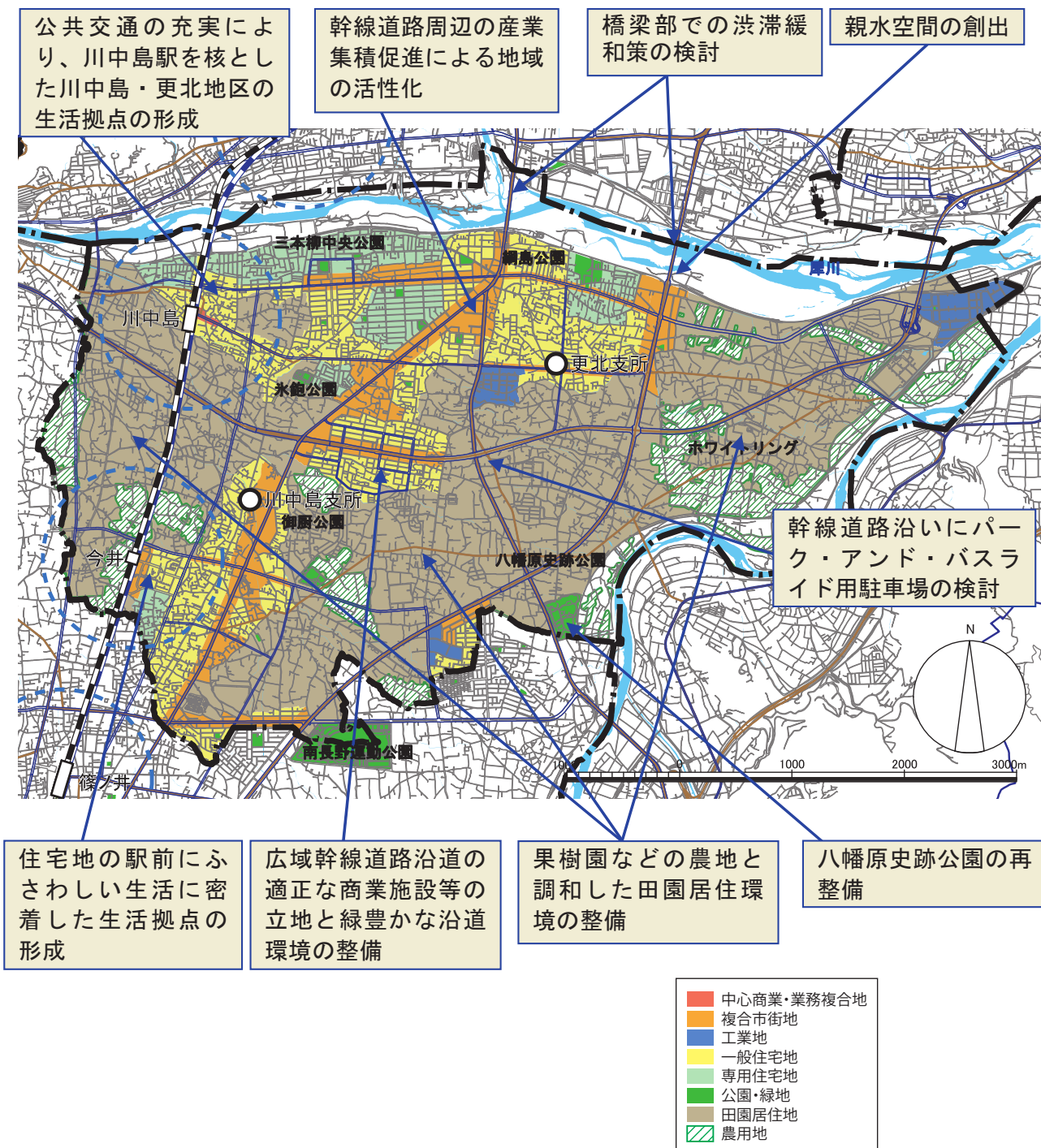


長野市真島総合スポーツアリーナ ホワイトリング

(2) 地域の街づくりの目標と整備の方針

地域の街づくりの目標	東西に広がる市街地の一体化を進め、川中島駅と今井駅周辺の生活拠点を中心とした公共交通網の整備により、利便性の向上を図るとともに、農業や工業などの産業的土地利用と住宅地が調和した、秩序ある土地利用を目指す。
整備の方針	
拠点の形成・都市機能形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 川中島駅周辺へのバス等の公共交通の充実により、駅へのアクセスを向上させ鉄道の利便性を総合的に高めるとともに、駅周辺への生活利便施設の立地の誘導により、駅を核とした川中島・更北地域の歩いて暮らせる生活拠点づくりを推進する。 国道 19 号（長野南バイパス）等の広域幹線道路沿いの市街地では、店舗等の適正な立地を誘導するとともに、良好な沿道景観の形成を図る。 今井駅周辺は、今井ニュータウン等の高層集合住宅による高い人口集積があることから、居住地の駅前にふさわしい、地域に親しまれる生活拠点の形成を図る。
土地利用方針	<ul style="list-style-type: none"> 県道長野上田線や国道 18 号、国道 19 号（長野南バイパス）、更北市場線沿いの市街地は、商業・流通・工業等の複合的な土地利用を進めることで、地域の活性化を図るとともに、周辺の住宅地との調和を図る。 川中島駅周辺は、駅までの徒歩・自転車利用が容易なため、集合住宅等の都市型住宅の立地を進め、居住機能の集積を高める。 丹波島、青木島地区は、川中島駅へのアクセスの向上や路線バスの利便性の向上などにより、良好な環境と利便性を備えた住宅地とする。 千曲川沿いや JR 線西側の地域は、農業的土地利用と居住機能が調和した防災性に配慮した土地利用を図る。 市街地周辺に広がる良好な農地の保全を図るとともに、体験型農業や 6 次産業化など農業の振興を目的とした他産業との連携を図る。
道路・交通整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 橋の周辺部での渋滞解消や犀川を挟んだ南北間の連携強化方策の検討を行う。 自動車通勤による道路や橋の渋滞を緩和し、公共交通の利用を促進するため、駅に近接するパーク・アンド・レールライド*用の駐車場や、幹線道路沿いにパーク・アンド・バスライド*用の駐車場を整備する。 県道長野上田線の整備を進めるとともに、住宅地では、生活道路の改良により、良好な住環境の確保と、防災性や利便性等の向上を図る。 長野広域拠点と、篠ノ井、松代、それぞれの地域拠点をつなぐ都市軸の交差点として、公共交通の基幹的施設の立地について検討する（南北基幹交通軸の形成）。 川中島駅周辺では、駅までの安全な歩行者空間の確保のため、歩道の改良整備を推進する。
自然環境・都市環境・景観形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の住宅地等では、道路空間や宅地内の緑を増やすとともに、水路の保全と活用を図り、景観に配慮した地域づくりを進める。 八幡原史跡公園は、レクリエーションに加え、観光や地域振興の面から広域的な交流を促進するための再整備を進める。 犀川では、河川敷を利用した遊歩道の整備を進めるとともに、自然とふれあえる親水空間の創出を図る。 犀川から取水される農業用水路を保全し、活用を図る。
防災都市づくり方針	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心して生活できる居住環境とするため、学校や公園等の公共施設を核とした防災の拠点の強化を図る。 千曲川・犀川では、水害を防ぐ河川改修を促進する。 水害等の災害に強い街づくりや防災体制づくりを促進する。

【川中島・更北地域 整備方針図】



地域共通の事項

- ・ 水害等災害に強い街づくりや体制づくり
- ・ 緑や景観に配慮した住宅地の環境整備
- ・ 生活道路の改良による住環境の向上
- ・ 農地の保全と農業振興を目的とした他産業との連携